

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

特長

- ハイインピーダンス接続とローインピーダンス接続のスピーカー接続に対応
- さまざまなソースをミックスして、ステレオ1系統、またはモノラル2系統に出力できるミキシング/ルーティング機能
- モノラル接続の場合、2つのゾーンのソース選択や音量を独立してコントロール可能（ゾーニング）
- スタンバイ中に入力信号を感知すると自動的に電源をオンにする「オートウェイクアップ」機能を搭載
- リバープ、エコー、コンプレッサー、EQ、レベラー、ダッカー、フィードバックサプレッサーなど豊富なデジタル信号処理機能を内蔵
- ヤマハスピーカーに適した音質にチューニングする「スピーカーEQ」を内蔵
- コントロールパネルDCPシリーズを最大2台接続して、リモートコントロールが可能

付属品(お確かめください)

- 電源コード（日本国内専用：125Vまで）
- ユーロブロックプラグ（6ピン×3、3ピン×1、いずれも3.5mmピッチ）
- セットアップガイド
- 取扱説明書（本書）：保証書が裏面にあります。

取扱説明書について

取扱説明書(本書)

安全上のご注意、パネル上の各部の名称と機能、ユーロブロックプラグの取り付け、スピーカーケーブルの接続、外部機器の接続について説明しています。

セットアップガイド(別冊)

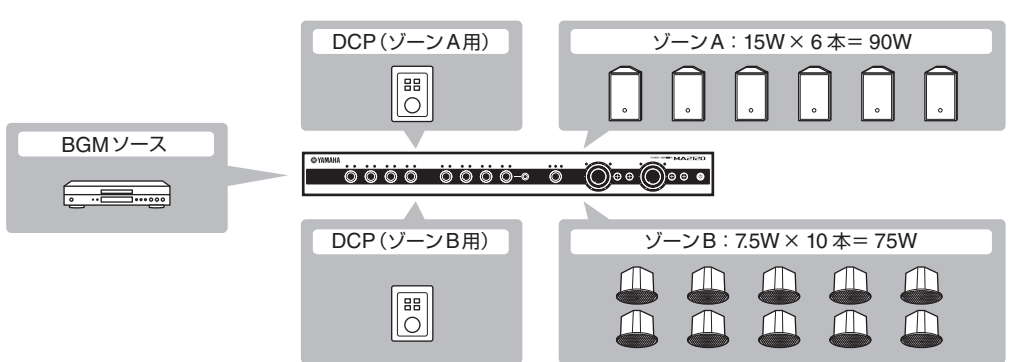
接続例、設置接続後の本体内の詳細設定、外部コントロールパネルやリモートコントロールの接続について説明しています。

オートスタンバイとオートウェイクアップ

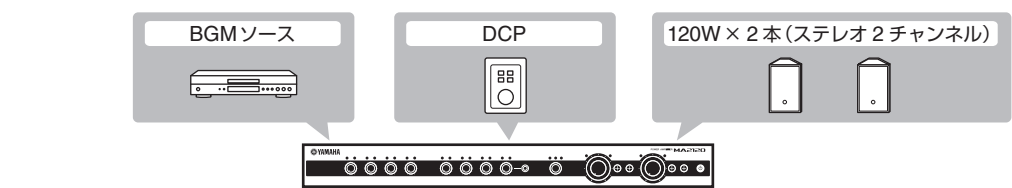
省エネルギーのため、本製品は 25 分以上入力信号がないときは自動的に電源がスタンバイ状態になります。オートスタンバイのオン/オフは [O] ボタンで設定できます。（→各部の名称と機能）スタンバイ状態のときに入力信号を感知すると自動的に電源がオンになる「オートウェイクアップ」機能が用意されており、マイク入力やBGMを入力すれば、電源オンの状態に復帰します。オートウェイクアップは、初期設定ではオンになっています。オートウェイクアップのオン/オフはリアパネルの [SETUP] ディップスイッチで設定できます。（→各部の名称と機能）

設置例

■ 2つのゾーンに複数のスピーカーを接続して使用する場合 (MODE: MONO)

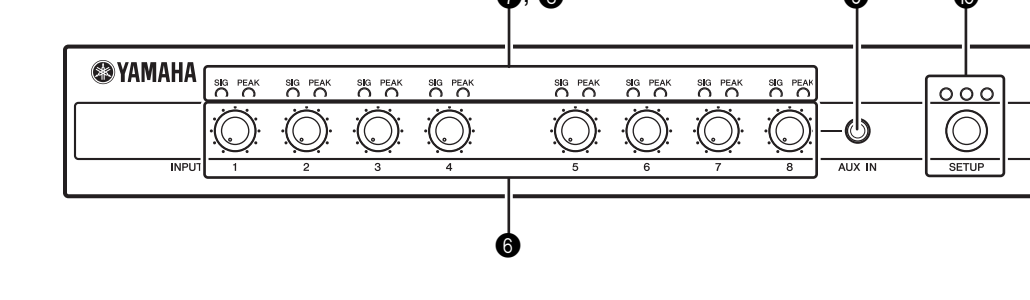


■ ステレオ2チャンネルで使用する場合 (MODE: STEREO)



各部の名称と機能

フロントパネル



- ❶** **【O】(スタンバイ/オン)ボタン**
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
オン:スタンバイの状態ボタンを押します。オンのときは、ボタンが緑色で点灯します。
スタンバイ:オンの状態でボタンを1秒以上押します。スタンバイのときは、ボタンがオレンジ色で点灯します。オンとスタンバイとが切り替わる数秒間は、黄緑色で点灯します。この間、すべての操作子が無効となります。
NOTE
 - 25分以上入力信号がない状態が長く自動的にスタンバイの状態になります。入力信号を感知すると自動的に電源をオンにする「オートウェイクアップ」機能を、リアパネルのディップスイッチで設定できます。
 - オートスタンバイのオン/オフを切り替えるには、電源が入った状態[O]ボタンを長押しします。一旦スタンバイ状態になったあと、再度本製品が起動するまで長押ししてください。オートスタンバイがオフになっている場合は、電源が入るときに[SIG]インジケータ―**❶**が約1秒間点滅します。
 - オートスタンバイがオフのときは、AC電源を挿すと自動的に電源がオンになります。
 - 電源のスタンバイ/オンを連続してすばやく切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源をスタンバイの状態にしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。

- ❷** **[VOLUME A]ノブ/[VOLUME B]ノブ**
[SPEAKER A]、[SPEAKER B] への出力レベルを調節します。
❸ **[BASS]コントロール/[TREBLE]コントロール**
[SPEAKER A]、[SPEAKER B] への出力信号の音質を調整する 2 バンドイコライザーです。ドライバ―などを使って調整します。
❹ **[SIG]インジケータ―**
A、Bへの出力信号レベルが最大出力よりも 42dB 低いレベル (-42dBFS) 以上になると点灯します。
❺ **[LIMIT]インジケータ―**
A、Bへの過大出力を抑えるためのリミッターが、信号を 3dB 以上圧縮したときなどに点灯します。LIMIT インジケータ―が点灯しないように入出力レベルを調整してください。
❻ **入力レベルノブ1～8**
[INPUT 1] ～ [INPUT 8] の入力レベルを調節します。右に回すほど入力レベルが大きくなります。通常時にノブを押すと、ノブを押したチャンネルの出力先の [SIG] インジケータ― **❹** が点滅します。リアパネルの [ROUTE] スイッチ **❸** で設定されている出力先を、フロントパネル上で確認できます。セットアップモードでは、ノブを押すことで調整機能や調整するチャンネルの選択にも使います。セットアップモードについての詳細は、セットアップガイド (別冊) をご参照ください。

- ❼** **[INPUT SIG]インジケータ―1-8**
[INPUT 1] ～ [INPUT 8] の入力信号レベルが内部の最大ノックリップレベルよりも 40dB 低いレベル (-40dBFS) 以上になると点灯します。入力レベルは、このインジケータ―が点灯するくらいに入力レベルノブで調整します。

- ❽** **[INPUT PEAK]インジケータ―1-8**
[INPUT 1] ～ [INPUT 8] の入力信号レベルが内部の最大ノックリップレベルよりも 3dB 低いレベル (-3dBFS) 以上になると点灯します。

- ❾** **[AUX IN]端子**
ステレオミニタイプの入力端子 (アンバランス入力) です。ポータブルオーディオプレーヤーなどのステレオ音源を接続します。[AUX IN] 端子からの信号は、[INPUT] 端子 8 と同じ信号経路でミックスされます。

- ❿** **[SETUP]エンコーダー/インジケータ―**
本機に内蔵されているさまざまな調整機能を実行するプッシュ式のエンコーダーです。長押しすると、セットアップモードに入り、インジケータ―は、セットアップモードで操作している機能の調整値などを表示します。セットアップモードについての詳細は、セットアップガイド (別冊) をご参照ください。

- ⓫** **AC IN端子**
付属の電源コードを接続します。

- ⚠ 警告**
本機は、アース接続を行なうことを前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、付属の電源コードを使ってアース接続を確実に行ってください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

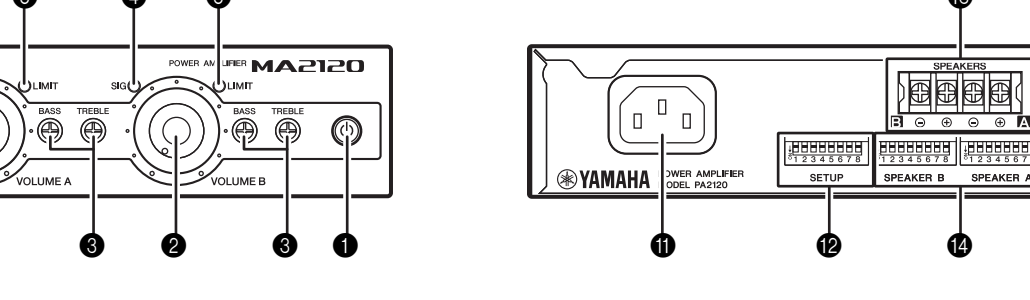
- ⚠ 注意**
 - 電源コードを接続するときは、最初にAC IN端子に電源コードを接続し、次に電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。
 - 電源コードを取り外す前に、必ず電源をスタンバイにしてください。

- ⓬** **[SETUP]ディップスイッチ**
本機の以下の機能を設定します。フロントパネルの [O] ボタンで電源を入れ直すと、設定の変更が反映されます。ディップスイッチの組み合わせと設定は以下のとおりです。

ディップスイッチ 1、2：パネルロック パネルの操作でロックする内容を設定します。		
1	2	設定
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	パネルロックオフ (すべての操作子が操作可能)
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	[SETUP] ノブをロック
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	[VOLUME] ノブ以外をロック
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	パネルロックオン (すべての操作子が操作不可)

出力 (20ミリ秒パースト、THD+N = 1%)	<p>アンプモード = 3 Ω</p> <p>アンプモード = 4 Ω</p> <p>アンプモード = 8 Ω</p> <p>アンプモード = 70V/120W</p> <p>アンプモード = 100V/120W</p> <p>アンプモード = 70V/200W</p> <p>アンプモード = 100V/200W</p>	<p>100W × 2ch</p> <p>120W × 2ch</p> <p>100W × 2ch</p> <p>120W × 2ch</p> <p>120W × 2ch</p> <p>200W × 1ch</p> <p>200W × 1ch</p>
増幅方式	Class D	
全高調波歪率	<p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>ハーフパワー @1kHz</p> <p>アンプモード = 3 Ω、4 Ω、8 Ω</p> <p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>ハーフパワー @1kHz</p> <p>アンプモード = 70V、100V/120W</p> <p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>ハーフパワー @1kHz</p> <p>アンプモード = 70V、100V/200W</p>	<p>≦ 0.2%</p> <p>≦ 0.2%</p> <p>≦ 0.2%</p>

リアパネル



ディップスイッチ 3、4：オートウェイクアップ
入力信号を感知したら自動的にスタンバイからオンになるオートウェイクアップ機能を設定します。

3	4	設定
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	オートウェイクアップオン
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	AC電源を挿したときと、オートスタンバイのときにオートウェイクアップオン
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	オートウェイクアップオフ

NOTE

- [REMOTE] 端子からの操作で電源がスタンバイになっているときは、オートウェイクアップがすべて無効になります。
- オートスタンバイをオフに設定している場合は、AC電源を挿したときに、上記の設定に関わらず電源がオンになります。

ディップスイッチ 5：A-Bボリュームリンク
SPEAKER A と SPEAKER B のボリュームコントロールをリンクさせるかどうかを設定します。リンクがオンのときは、[VOLUME A] ノブで操作します。

5	設定
<input type="checkbox"/> 上	リンクオフ (SPEAKER A と SPEAKER B の音量を独立して操作)
<input type="checkbox"/> 下	リンクオン (SPEAKER A と SPEAKER B の音量を [VOLUME A] ノブで操作)

NOTE

- セットアップモードで、ラインアウトの音量を [VOLUME] ノブで操作する設定を A と B どちらもオンにしているとき、A-Bボリュームリンクをオンにすると [LINE OUT] の A と B も同様に連動します。

ディップスイッチ 6：DCPボリュームリンク
DCP でボリュームを操作するときに、[SPEAKERS] 端子の出力レベルと [LINE OUT] 端子の出力レベルを連動させるかどうかを設定します。

6	設定
<input type="checkbox"/> 上	リンクオフ ([SPEAKERS] 端子と [LINE OUT] 端子の音量を個別に操作)
<input type="checkbox"/> 下	リンクオン ([SPEAKERS] 端子と [LINE OUT] 端子の音量を一纏に操作)

NOTE

- リンクオンのときは、DCPでのボリューム操作が、[SPEAKERS]、[LINE OUT] のどちらからでもできます。

ディップスイッチ 7、8：ダッカー
[INPUT 1] と [INPUT 3] への入力時に、同じ出力先に設定されている他のチャンネルのマイク入力をミュートしたり、ライン入力を減衰させるダッカー機能を設定します。

7	8	設定
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	ダッカーオフ
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	[INPUT 1] に入力があったときにダッカーオン
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	[INPUT 3] に入力があったときにダッカーオン
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	[INPUT 1] または [INPUT 3] に入力があったときにダッカーオン、両方に入力があったときは [INPUT 1] が優先

- ⓬** **[SPEAKERS]出力端子**
プラグやケーブル芯線をねじて固定する (U) アストリップタイプのスピーカー出力端子です。A と B の 2 系統が用意されています。設定の変更が反映されます。

- ⓬** **[SPEAKER A]/[SPEAKER B]ディップスイッチ**
接続するスピーカーに合わせてアンプモードやスピーカーEQを設定します。フロントパネルの [O] ボタンで電源を入れ直すと、設定の変更が反映されます。ディップスイッチの組み合わせと設定は以下のとおりです。

ディップスイッチ 1、2、3：アンプモード/セットアップ
アンプ出力のパワーやインピーダンスを設定します。

注記

ディップスイッチの設定とスピーカーのインピーダンスや定格入力が入っていない場合は、機器本来の性能が出なかったり、故障や音切れなどの原因となりますので、必ず設定を合わせてください。

1	2	3	設定
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	アンプ出力 120W、ハイインピーダンス 100V
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	アンプ出力 120W、ハイインピーダンス 70V
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	アンプ出力 200W、ハイインピーダンス 100V、[SPEAKERS] 出力端子 A からのみ出力
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	アンプ出力 200W、ハイインピーダンス 70V、[SPEAKERS] 出力端子 A からのみ出力
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	アンプ出力 100W、ローインピーダンス 8 Ω以上
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	アンプ出力 120W、ローインピーダンス 4 Ω以上 8 Ω未満
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	アンプ出力 100W、ローインピーダンス 3 Ω以上 4 Ω未満
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	出力ミュート

--	--	--	--

主な仕様

周波数特性	<p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>50Hz から 20kHz まで、1W 出力</p> <p>アンプモード = 3 Ω、4 Ω、8 Ω</p> <p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>90Hz から 20kHz まで、1W 出力</p> <p>アンプモード = 70V、100V/120W</p> <p>ライン入力からスピーカー出力、</p> <p>90Hz から 20kHz まで、1W 出力</p> <p>アンプモード = 70V、100V/200W</p> <p>ライン入力からライン出力、</p> <p>20Hz から 20kHz</p>	<p>0dB、-3.0dB、+1.0dB</p> <p>0dB、-3.0dB、+1.0dB</p> <p>0dB、-3.0dB、+1.0dB</p> <p>0dB、-3.0dB、+1.0dB</p> <p>0dB、-2.5dB、+1.0dB</p>
クロストーク	マイク/ライン入力から別のマイク/ライン入力	≦ -70dB
電源条件	100V、120V、230V-240V 50Hz/60Hz (*1)	

*1 定格電源電圧の ± 10% の電圧で動作することを確認しています。

消費電力	<p>スタンバイ状態</p> <p>アンプモードによらない</p> <p>アイドル状態</p> <p>アンプモード = 3 Ω、4 Ω、8 Ω</p> <p>アイドル状態</p> <p>アンプモード = 70V、100V</p> <p>1/8 出力、ピンクノイズ</p> <p>アンプモード = 4 Ω</p> <p>1/8 出力、ピンクノイズ</p> <p>アンプモード = 70V/120W</p>	<p>≦ 1W</p> <p>15W</p> <p>20W</p> <p>60W</p> <p>60W</p>
-------------	---	---

ディップスイッチ 4、5、6：スピーカーEQ
接続するスピーカーに合わせて出力信号を補正するスピーカーEQを設定します。

4	5	6	設定
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	オフ
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	ハイパスフィルター 150Hz
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	ローパスフィルター 150Hz
<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	ローパスフィルター 200Hz
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 上	ヤマハスピーカー-VXSシリーズを想定した周波数補正
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	<input type="checkbox"/> 下	ヤマハサブウーファ―VXS10S/VXS10STを想定した周波数補正 (45 - 150Hz)
<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 下	<input type="checkbox"/> 上	ヤマハスピーカー-VXCシリーズを想定した周波数補正

- ⓬** **[DCP]端子**
ヤマハデジタルコントロールパネルDCP1V4S、DCP4S、DCP4V4Sを、最大2台まで接続して離れたところから本機を操作できます。接続方法はセットアップガイド (別冊) の「コントロールパネルの接続」をご参照ください。

- ⓬** **[REMOTE]端子**
全チャンネルのミュートのオン/オフ、電源のスタンバイ/オンを外部から操作するためのユーロブロック 3 ピン端子です。詳細についてはセットアップガイド (別冊) の「[REMOTE] 端子の使いかた」をご参照ください。

- ⓬** **[LINE OUT]端子**
RCAタイプのライン出力端子 (アンバランス入力) です。[SPEAKERS] 端子に出力されると同じ信号が出力されます。A と B の 2 系統用意されています。各 [INPUT] 端子に入力された音声信号と内蔵エフェクトをミックスしてラインレベルで出力します。スピーカーの数が多く、本機だけでカバーできない場合に、別のアンプを拡張するのに使います。

- ⓬** **[INPUT]端子1～6**
ユーロブロック 3 ピンの入力端子 (バランス入力) です。マイクや他の外部機器のライン出力端子と接続します。

- ⓬** **[GAIN]スイッチ**
[INPUT] 端子 1～6 の入力ゲインとファンタム電源のオン/オフを 2 チャンネルごとに設定します。
- | スイッチ | 設定 |
|------------|--------------------------|
| MIC (+24V) | マイクレベル、ファンタム電源 (+24V) オン |
| MIC | マイクレベル、ファンタム電源オフ |
| LINE | ラインレベル、ファンタム電源オフ |

⚠ 注意

- ファンタム電源のオン/オフ切り替えは、[VOLUME A] ノブと [VOLUME B] ノブを最小の位置で行なってください。
- ファンタム電源が不要な場合や、ファンタム電源非対応の機器を接続する場合は、ファンタム電源オフの位置でお使いください。
- ファンタム電源をオンにしたままケーブルの抜き差しをしないでください。

- NOTE**
 - [GAIN] スイッチを [MIC (+24V)] または [MIC] に設定したときは、入りにノイズゲート (スレッシュドレベル：-72dBFS) が自動的にかかり、マイクを使っていないときに拾う周辺の雑音を自動的に抑えます。INPUT5、INPUT6 で [GAIN] スイッチが [MIC (+24V)] または [MIC] に設定されているときは、[MONO SUM INPUT] にもノイズゲートが有効になります。[MONO SUM INPUT] 端子を使うときは、[GAIN] スイッチを [LINE] に設定してください。
 - 電源がスタンバイのときに [GAIN] スイッチを切り替えたときは、電源がオンになったあとに反映されます。そのため、変更前のゲインの設定によっては、信号の入力によるオートウェイクアップ機能が入力レベル不足で動作しないことがあります。オートウェイクアップ機能を正常に動作させるためには、電源がオンの状態で適切なゲインに設定してください。

- ⓬** **[ROUTE]スイッチ**
[INPUT] 端子 1-6 からの信号の出力先を 2 チャンネルごとに設定します。[INPUT] 端子 7、8 では、[MODE] スイッチが MONO のときの出力先を設定します。

スイッチ	設定
A	Aに出力
B	Bに出力
A&B	AとBに出力

- ⓬** **[MONO SUM INPUT]端子5.6**
RCAタイプのライン入力端子 (アンバランス入力) です。他の外部機器のライン出力端子と接続します。[INPUT 5] と [INPUT 6] にそれぞれ 2 系統接続できます。入力された信号はすべてモノラルでミックスされます。[INPUT] 端子 5、6 のユーロブロックプラグから同時に入力したときも、すべてミックスされます。

- ⓬** **[INPUT]端子7.8**
RCAタイプのライン入力端子 (アンバランス入力) です。外部機器のライン出力端子と接続します。

- ⓬** **[MODE]スイッチ**
[INPUT] 端子 7、8 からの入力信号を、[SPEAKERS] 端子や [LINE OUT] 端子にどう出力するかを設定します。

スイッチ	Lチャンネルの出力先	Rチャンネルの出力先
STEREO	A	B
MONO	L/Rチャンネルの信号がモノミックスされる。モノミックスされた信号の出力先は [INPUT] 端子 7、8 の [ROUTE] スイッチによる	

--	--	--	--

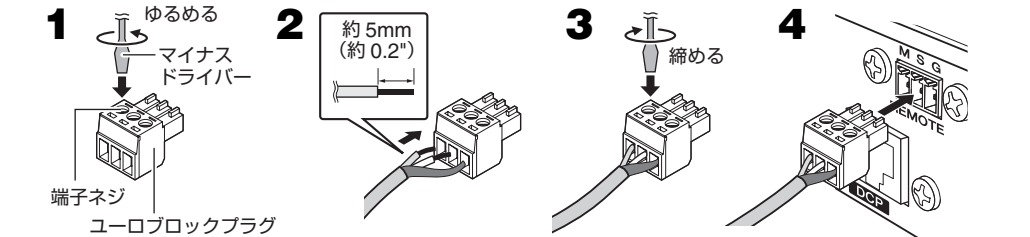
設置条件、ラックマウント条件	<p>上下の通風確保し、ラックマウント可能 (ラックマウント時は上下 1U 以上の隙間をあけること)</p>
使用温度	0℃ to +40℃
保存温度	-20℃ to +60℃
外形寸法 (W × H × D)	480mm × 44mm × 351mm (突起部含まない)
質量	4.9kg
付属品	<p>AC power cord (2.0m) × 1、</p> <p>3.5mm Euroblock plug (6pin) × 3、</p> <p>3.5mm Euroblock plug (3pin) × 1、</p> <p>Owner's Manual × 1、</p> <p>Setup Guide × 1</p>
別売オプション	Digital Control Panel (DCP1V4S-US/EU、DCP4V4S-US/EU、DCP4S-US/EU)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

接続

ユーロブロックプラグの取り付け

例（[REMOTE]端子に接続する場合）



NOTE

- 付属のユーロブロックプラグを必ず使用してください。紛失した場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ユーロブロックプラグに取り付けるケーブルには、より線を使用し、図のようにむき出しで配線してください。また、ユーロブロックでの配線は、ケーブルの重さや振動による金属疲労により、より線が切れやすくなる場合があります。ラックマウント時は、できるかぎり束縛バーなどを使用してケーブルを結束して固定してください。
- より線には、はんだめっきしないでください。

- 端子ネジをゆるめる。
- ケーブルを差し込む。
- 端子ネジをしっかりと締め付け、ケーブルを少し引っ張り抜けないことを確認する。
- ユーロブロックプラグを本機の端子に取り付ける。

スピーカーケーブルの接続

リアパネルにある [SPEAKERS] 出力端子は、プラグやケーブル芯線をねして固定するバリアストリップタイプです。Y型プラグを使った接続と、芯線がむき出しの場合の接続を説明します。

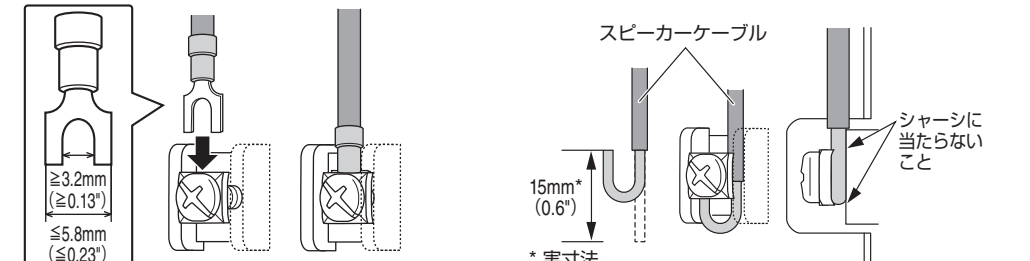
▲注意

- スピーカーケーブルに荷重がかからないように設置してください。
- 本機はアンプ出力にBTL（Balanced Transformer Less）接続の方式を採用しています。プラスマイナスそれぞれの端子にアンプ出力が接続されるため、他の端子やシャーシとの接触は故障の原因になりますのでご注意ください。

NOTE　アンプとスピーカーの＋／－を一致するように結線してください。逆にすると位相が反転するため、音が正しく出ません。

Y型プラグの場合

ネジをゆるめ、Y型プラグを奥まで差し込み、プラグが脱落しないようにネジを締め付けます。



芯線がむき出しの場合

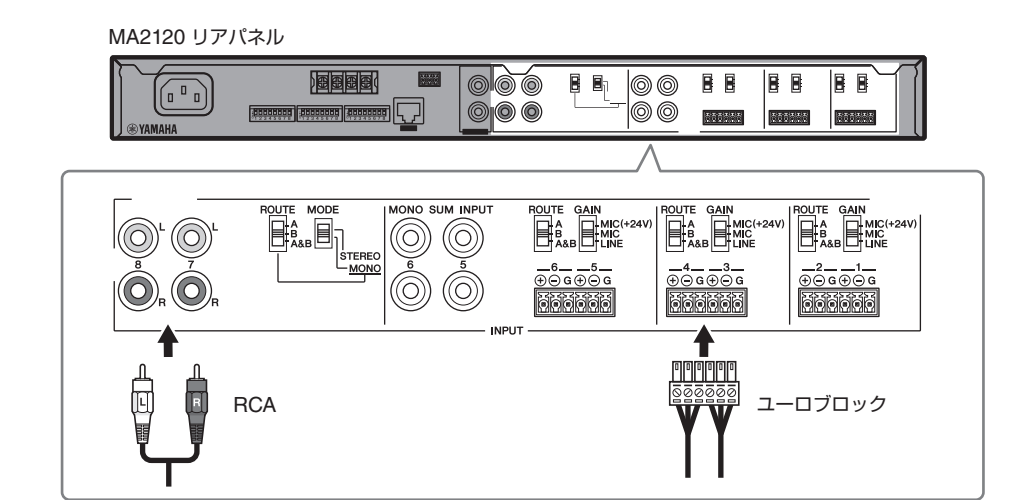
ネジをゆるめ、芯線をバリアストリップ端子に巻きつけ、ケーブルが脱落しないようにネジを締め付けます。芯線がシャーシに当たらないように注意してください。

外部機器の接続

本機の電源がオフの状態、で、BGMチューナー、CDプレーヤー、ポータブルオーディオプレーヤーなどを、本機の [INPUT] 端子に適切なケーブルを使って接続します。接続がすべて終わってから、電源コードをコンセントに挿します。

▲警告

電源コードをコンセントに挿したときに入力信号を感知すると、初期設定ではオートウェイクアップ機能が働き本機の電源が自動的にオンになります。また、オートスタンバイ機能をオフにしている場合は、電源コードをコンセントに挿したときに本機の電源が自動的にオンになります。急に音が出るのを防ぐために、必ずすべての機器の電源がオフの状態でマイクや外部機器を接続してください。



NOTE　ユーロブロックプラグの取り付け方法は、「ユーロブロックプラグの取り付け」をご参照ください。

ラックマウント時の注意

この機器が動作保証する室温は 0～40℃です。この機器を複数台または他の機器と一緒にEIA標準のラックにマウントする場合、各機器からの熱でラック内の温度が上昇し、十分な性能を発揮できないことがあります。この機器に熱がこもらないように、必ず以下の条件でラックにマウントしてください。

- この機器を複数台マウントする場合は、この機器 1台ごとに 1U以上のすき間を確保してください。また、このすき間は通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。
- 他の機器と一緒にマウントする場合は、他の機器との間を 1U以上空けてください。また、このスペースは通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。
- ラックの背面を開放して、ラックを壁や天井から 10cm以上離し、十分な通気を確保してください。ラックの背面を開放できない場合は、ラックに市販のファンキットなどの強制換気用装置を設置してください。ファンキットを取り付けた場合は、ラックの背面を閉じた方が放熱効果が大きくなることもあります。詳しくはラックおよびファンキットの取扱説明書をご参照ください。

困ったときは

症状	原因	対策
電源が入らない	電源コードが抜けている。 機器の保護機能が働いている。	電源コードを接続してください。 電源コードを抜いて電源をオフにし、接続を確認してください。その後、数分してから電源を入れ直してください。また、風通しのよいところなど、温度が上昇しにくい場所に設置してください。
電源が切れてしまう	[REMOTE] 端子の [S] と [G] をショートしている。 オートパワーオフ機能が働いた。	[REMOTE] 端子に接続したコントロールで電源をオフにしてください。 オートパワーオフ機能が働いた場合は、電源が入っている状態で [O] ボタンを長押ししてください。
自動的に電源が入ってしまう	オートウェイクアップ機能が働いた。	オートウェイクアップ機能は、初期設定ではオフになっています。オフにするには、電源がスタンバイの状態 [SETUP] ディップスイッチ 3、4 をどちらも下に設定して、 [O] ボタンで電源をオンにしてください。
音が出ない	[VOLUME] ノブ/[VOLUMEB] ノブを音量を下げ過ぎている。 音声信号が入力されていない。 [INPUT] レベルノブで入力レベルを下げ過ぎている。 [ROUTE] スイッチの設定が適切でない。 コンデンサーマイクを使用しているのに、ファンタム電源がオフになっている。	外部機器との接続と、外部機器からの出力を確認してください。 入力チャンネルの [INPUT] レベルノブを右に回してください。 入力チャンネルの [ROUTE] スイッチの設定を確認してください。 コンデンサーマイクを接続したチャンネルの [GAIN] スイッチを [MIC (+24V)] に設定してください。
アンプ出力を 200W に設定したときに、 [SPEAKERS] 端子 B を使っている。	アンプ出力を 200W に設定したときに、 [SPEAKERS] 端子 B からは信号が出されません。アンプ出力の設定や接続を見直してください。	
コントロールパネルの設定が保持されている。	コントロールパネルで操作した設定を初期化するには、セットアップガイド「コントロールパネルでの設定を初期化する（DCP セットアップ）」をご参照ください。	
音が小さい	本機がローインピーダンス設定のときに、ハイインピーダンスのスピーカーを接続している。 マイクや外部機器からの入力レベルが高くなっている。	本機とスピーカーでインピーダンスの設定を合わせてください。 入力チャンネルの [GAIN] スイッチを [MIC] に設定してください。
音が歪む	[INPUT] レベルノブを左に回して音量を絞ってください。外部機器の出力レベルを絞ってください。 入力EQは [SETUP] ノブを 1 秒以上長押し+入力レベルノブ 3（BASS）または入力レベルノブ 4（TREBLE）を選択→入力チャンネルを選択で調整してください。出力EQはフロントパネルの [BASS] コントロールと [TREBLE] コントロールをドライバーなどを使って調整してください。	外部機器の出力レベルを絞ってください。 本機とスピーカーでインピーダンスの設定を合わせてください。
ノブを回しても機器の動作が変化しない	パネルがロックされている。	パネルロックをオフにするために、 [SETUP] ディップスイッチ 1、2 をすべて上にして [O] ボタンで電源を入直してください。
[SETUP] ノブを操作しても、機器の動作が変化しない	[SETUP] ノブがロックされている。	
[VOLUME] ノブ以外のノブを操作しても、機器の動作が変化しない	[VOLUME] ノブ以外がロックされている。	
INPUT/8 に接続したステレオソースが、正しくステレオ信号で再生されない	[MODE] スイッチが MONO に設定されている。	[MODE] スイッチを STEREO に設定してください。
INPUT/8 に接続したステレオソースが、各ゾーンで正しく再生されない	[MODE] スイッチが STEREO に設定されている。	[MODE] スイッチを MONO に設定して、 [ROUTE] スイッチを適切に設定してください。
ディップスイッチの設定が反映されない	[O] ボタンで電源をオンにしている。	ディップスイッチの変更は [O] ボタンで本体を電源オフしたときに反映されます。オートパワーオンや [REMOTE] 端子からの操作で電源をオンにしたとき反映されません。フロントパネルの [O] ボタンで本体の電源をオンにしてください。
音が途切れて [O] ボタンと [LIMIT] インジケーターが 3 回点滅する	本機がハイインピーダンス設定のときに、ローインピーダンスのスピーカーを接続しているか、最大定格を超えるスピーカーを接続している。 本機がローインピーダンス設定のときに、接続しているスピーカーの合成インピーダンスが本機の設定より低い。 スピーカーケーブルがショートしている。	本機とスピーカーでインピーダンスの設定を合わせてください。 本機とスピーカーでインピーダンスの設定を合わせてください。
[O] ボタンと [LIMIT] インジケーターが点滅しつづつて、音がミュートされる	機器の内部の温度が異常に高くなっている。 放熱用スリットをふさいだり、風通しの悪いところに設置している。 本機の設定とスピーカーのインピーダンスが合っていない。 本機の性能を超える大音量を出し続けている。	機器の保護機能が働いています。電源コードを抜いて風通しの良いところに放置し、数分後に電源を入れ直してください。 機器の保護機能が働いています。設置環境や、設置状態を見直してください。風通しのよいところなど、温度が上昇しにくい場所に設置してください。 本機とスピーカーでインピーダンスの設定を合わせてください。 音量を下げてください。

- ヤマハプロオーディオサイトに掲載している FAQ（よくあるご質問と答え）もご確認ください。
http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/
- 上記の対策を実施しても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

安全上のご注意

ご使用前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

▲警告 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

▲注意 「危害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

記号表示について

この製品を取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

▲ 注意喚起を示す記号

! 禁止を示す記号

! 行為を指示する記号

- この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

▲警告

電源/電源コード

- 電源コードが破損するようなことをしなない。
- スレーブなどの機器用に近づけない
- 無理に曲げない
- 傷つけない
- 電源コードに重いものをのせない
- 感電や火災の原因になります。

! 電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

! 電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の故障、発熱、火災などの原因になります。付属の電源コードは日本国内専用（125Vまで）です。

! 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

! この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合によく目に電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かない限り電源が完全に遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。ラックに設置する場合は、電源スイッチとは別に電源の遮断装置となる機器を接続して、容易に操作できるようにしてください。

! 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

接続

- 接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行なう。
- 接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行なう。
- 電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

! 電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

分解禁止

! この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意

- この機器の上面に花びらや薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や喫煙時の煙外など湿度の多いところで使用しない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

! むれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

聴覚障害

! イコライザーのつまみとボリュームをすべて最大にしない。接続した機器の状態によっては、フィードバックが起きて聴覚障害やスピーカーの損傷になることがあります。

大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。聴覚障害の原因になります。

! オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に使用する。電源を消すときは、この機器を最初に消す。聴覚障害やスピーカーの損傷になることがあります。

火に注意

! この機器の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

異常に気づいたら

! 下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグがたんだ場合
 - 製品から異常なにおいや煙が出た場合
 - 製品の内部に異物が入った場合
 - 使用中に音が出なくなった場合
 - 製品に亀裂、破損がある場合
- そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

必ずお守り

必ずお守り

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

▲注意

電源/電源コード

! 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置

! 不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。

! この機器の通風孔（放熱用スリット）をふさがない。内部の温度上昇を防ぐため、この機器の天面/側面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

! 放熱のため、この機器を設置する際は、

- 布やテールクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 天面以外を上にして設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本機の周囲に上 10cm、左右 10cm、背面 10cm以上のスペースを確保してください。

! 増湿や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

! この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

! この機器をEIA標準ラックにマウントする場合は、2ページ の「ラックマウント時の注意」をよく読んでから設置する。

放熱が不十分だと機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になることがあります。

接続

- ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。
- 電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量（ボリューム）を最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷になることがあります。

! スピーカーの接続には、スピーカー接続専用のケーブルを使用する。それ以外のケーブルを使うと、火災の原因になることがあります。

手入れ

! この機器の手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

取り扱い

使用中や使用直後に本体の温度が高いときは、電源を切り、時間を置いて温度が下がってから持ち運ぶ。低温やけどの原因になることがあります。

! この機器の通風孔/パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上でお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

! この機器の通風孔/パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上でお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

- この機器の上のつたり重いものをのせたりしない。
 - ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
- この機器が破損したり、けがををたりする原因になります。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビラジオ、AV 機器、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなること、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- この機器の上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ペンシヤンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入らずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。
- この機器はスピーカー再生以外の用途には使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 使用後は、必ず電源をオフにしましょう。
- [O]（スタンバイ/オン）ボタンがスタンバイの状態でも微電流が流れています。スタンバイ状態の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

持込修理		保証書	
品名	パワーアンプリファイアー	本書は、本書記載内容で無償修理を行う事を約束するものです。お買い上げ日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。この依頼の開始、輸入を証明する書類（レシート、売買契約書、納品書など）を合わせてご提示ください。（詳細は下欄をご覧ください）	
品番	MA2120	保証期間	本体 お買い上げ日から1年間
※シリアル番号		※お買い上げ日	年 月 日
保証期間	本体 お買い上げ日から1年間	お客様	ご住所 お名前 電話 () 様
お買い上げ日	年 月 日	ご販売店様へ	※印鑑は必ずご記入ください。
お客様	ご住所 お名前 電話 () 様	※販売店様へ	※印鑑は必ずご記入ください。
ご販売店様へ		<p>株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部 〒103-0015 東京都中央区日本橋橋町41番12号 KDX箱崎ビル1F TEL. 03-5652-3850</p>	

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態で（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で）故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げ販売店にご依頼ください。
- ご購入品、ご購入後の修理についてお買い上げの販売店にご依頼できない場合には、お客様ご自身の責任においてご不明な場合は、お買い上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買い上げの年月日、お客様、お買い上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買い上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、増湿、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご希望により出張修理を行なう場合の出張料金。

※ この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様ご自身の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明な場合は、お買い上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。

※ ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報とは、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報には適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

※ その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハプロオーディオインフォメーションセンター

0570-050-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**

受付時間 月曜日～金曜日 11:00～18:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 03-5652-3634

オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/suport/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

0570-012-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX 03-5762-2125 東京都北（北海道/東北/関東/甲信越/東海）

06-6649-9340 西日本（北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄）

修理品

有寿命部品

フーター、ボリューム、スイッチ、接続端子など

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX 03-5762-2125 東京都北（北海道/東北/関東/甲信越/東海）

06-6649-9340 西日本（北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄）

修理品

有寿命部品

フーター、ボリューム、スイッチ、接続端子など

●修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などを確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などと合わせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

●損害に対する責任

本製品（搭載プログラムを含む）のご使用により、お客様に生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益）については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

●販売元

(株) ヤマハミュージックジャパン PA 営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋橋町41-12

KDX 箱崎ビル 1F

* 名称、住所、電話番号、営業時間、URL などは変更になる場合があります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の上面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。	<p>ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト https://www.yamaha.com/proaudio/</p> <p>ヤマハダウンロード https://download.yamaha.com/</p>
機種名	
製造番号	